

こんしゅう せん きょう
今週のことば「**宣教**」

せいしよ ふくいんしよ
《聖書》マルコによる福音書 1:29-39

だい こうかいぎ あと ねん
第2バチカン公会議の後、1974年
げんだいしゃかい ふくいんせんきょう
に「現代社会における福音宣教」をテー
マにシノドス（世界司教代表者会議）が
ひら ふくいんせん
開かれました。そのまとめが、「福音宣
きょう かん きょうこう せい し と てきかんこく
教に関する教皇パウロ6世の使徒的勧告」
ぶんしやう はっぴやう い か
という文章で発表されました。以下にそ
いちぶ しょうかい
の一部を紹介します。

ふく いん せん きょう なに
福音宣教とは何か

きょうかい ふくいんせんきょうしや
教会は福音宣教者ですが、それにはま
きょうかいじ しん ふくいんせんきょう
ず教会自身が福音宣教されねばなりませ
しん もの あつ きぼう い
ん。信じる者の集まりであり、希望に生
きて、希望を伝える兄弟的愛の共同体で
ある教会は、信ずべきこと、希望すべき
こと、愛の新しいおきてについて絶えず
けいちょう せ ぞく
傾聴しなければなりません。教会は世俗
しゃかい ただなか す かみ たみ
社会の只中に住む神の民であり、しばし
ぐうどう ゆうわく あ しゅ た
ば偶像の誘惑に会い、主に立ちかえらせ
かみ いたい わざ せんげん つね き ひつ
る「神の偉大な業」の宣言を常に聞く必
やう かんけつ い ふくいん の
要があります。簡潔に言えば、福音を宣
きょうかい しんせん かつりよく
べるにあたって、教会が新鮮さと活力と
のうりよく たも きょうかいじ しん つね ふく
能力を保つためには、教会自身が常に福
いんか ひつよう
音化される必要があるということです。
(15)

じゅうらい ふくいんせんきょう し
従来は、福音宣教とはキリストを知ら
ひとびと おし せつきょう よう
ない人々に教え、説教し、カトリック要
りと せんれい た ひ せき さず
理を説き、洗礼その他の秘跡を授けるこ
ていぎ
とと定義されてきました。しかし、福音
せんきょう しん すがた ゆた ふくざつ
宣教の真の姿、その豊かさ、複雑さ、そ
どうき めん ふ ふんてき だんべんてき
の動的な面を、部分的あるいは断片的に
ていぎ ひんじやく
定義することは、それを貧弱なもの、ゆ
きけん
がんだものとする危険があります。(17)

せい かつ
生活によるあかし

きょうかい ふくいんせんきょう さいしよ ほうほう
教会にとって、福音宣教の最初の方法
きょうと しんせい せいかつ
は、キリスト教徒としての真正な生活の
なに
あかしです。何もものもさえぎつてはなら
かみ まじ ささ どうじ りん
ない神との交わりに献げられ、同時に隣
じん ほうし かぎ ねつい しめ
人への奉仕に限りない熱意を示すキリス
きょうと せいかつ きょうちやう
ト教徒の生活のあかしこそ、まず強調さ
きょうかい よ なか
れるべきものであります。教会が世の中
ふくいんか こうい せいかつ
を福音化するのは、行為と生活によるの
かんげん
であつて、換言すれば、イエス・キリス
きょうかい ちゆうじつ い
トにたいする教会の忠実さの生けるあか
きょうかい せいひん げ だつ よ
し、ならびに教会の清貧と解脱、この世
けんりよくくつ じ ゆう い
の権力に屈しない自由の生けるあかし、
ひとこと せいせい
一言でいえば、聖性のあかしによるので
あります。(41)

ねんかんだい しゅじつ ねん たきの
年間第5主日B年（滝野）